

7 「学習環境」の整備ってどういうこと？



いつも整理整頓に気を配っています。(初任者の声)

整った教室では、子どもも教師も気持ちよく一日を過ごすことができます。
学校生活の大半を過ごす教室は、こうした子どもの精神面だけでなく、学習面にも大きな影響を与えます。

「学習環境」の整備とは、教室環境を整理整頓するだけではなく、学習のねらいを意識し、子どもが自分から興味をもって学習に取り組むことができるように環境を整えることです。



学習意欲を高める工夫

1 安全で落ち着いた環境の整備

【安全で快適に過ごせる環境】

- ・机、椅子、ロッカー等の整理整頓、清掃等を確実に行う。
- ・画びょう、フックなど危険な物がないか、こまめに確認する。

【落ち着いた環境】

- ・教室前面は掲示物を特に厳選し、視覚的な刺激を減らす。
- ・掲示物をこまめに確認し、剥がれかけていれば直す。

2 計画的な環境の整備

- 単元に応じて、関連する図書を整備する、生き物を飼育する、関連する写真や物品を展示するなど興味・関心をもたせる工夫を行う。
- 子どもが制作した成果物や調べ学習の結果などをポスターにまとめて展示し、子どもたちに身に付けてほしいこと、話題にしてほしいことを示す。

3 学習展開に応じた環境の整備

子どもの学習状況に応じて、問題解決の手掛かりとなる資料コーナーを増設したり、前時までの学習過程を提示したりして、環境を再構成する。

授業改善のためのICT活用

ICT活用は、子どもの興味を引き出し、学力の定着に有効なことは、既に実証されています。ICTの効果的な活用で、次のようなことが期待できます。

1 指示・説明が明確になる

【教科書やワークシートなどを大きく映して説明】

実物投影機を用いて大きく提示した教材と、子どもの手元にあるものが同じなので、注目させる場所や書き込む場所、線を引く場所などを確実に指示できます。

【手元を大きく見せて説明】

算数で分度器の目盛の合わせ方や読み方を指導する、縫い物の手元の動きを見せる、書写で手本や筆の動きを見せるなどの使い方ができます。

2 興味・関心を喚起することができる

【優れたコンテンツの利用】

実際に行くことができない場所や時代をイメージさせることができます。

【フラッシュ教材の利用】

課題を次々に提示していくことで、授業に変化をつけることができます。

3 理解を深めることができる

【実技・技能の振り返り】

体育の実技や英語のスピーチなどのパフォーマンスを録画してすぐに見せ、説明しながら改善点を探ることができます。

【シミュレーションソフトを活用】

理科で惑星の運動と太陽の位置関係を理解させるなど、時間的・空間的に実験が難しいものでも、再現して考察することができます。

ICTを活用すると、子どもの意識が集中しやすく、教師の指示や説明に要する時間が短縮されます。そこで生まれた時間的余裕を、子どもの話合いや活動の時間に充てることができます。ICTが日常的に活用できるように環境を整えましょう。

ICT活用は授業改善のための有効な手段ですが、活用すること自体が目的ではありません。授業のねらいを達成するためのツールとして活用しましょう。

※ **文部科学省「学びのイノベーション事業実証研究報告書」が参考になります。**

環境に教育的価値を含ませることで、主体的な子どもの学習を促しましょう。そのためには、子どもの身の回りの環境のもつ特性・特質について、日頃から意識しておくことが大切です。